

中国自転車旅行記 広東省南下編

11月23日 星期六 晴れ 広東省・梅花鎮→竜帰鎮 益竜居：60元

8時前起床。9時前に住宿を出発して近くの店で麺を食べた。梅花鎮を出てからは登りが続いた。アップダウンの激しい山道を進んで、11時前に標高700mくらいの最高地点に着いた。これより乳源ヤオ族自治県に入る。この辺りも「桂林」みたいなタワーカルストの山並みが多く見られて独特な風景だった。

大橋鎮を過ぎて、少し登ってからはダム湖の横を下った。ダム湖から流れ出す南水河に沿って進み14時半頃、乳源の平野に出た。この時は、根尾谷から濃尾平野へ車で出た時と同じ感じがした。乳源のイスラム食堂で刀削麺を食べた。乳源から竜帰鎮への下りで、二頭の白い中型犬に追いかけられた。中国共産党はこういう糞野犬どもをどんどん殺処分してくれ！（日記ママ）

17時頃に竜帰鎮に着いて益竜居という住宿にチェックインする。1泊60元だが、3階の部屋まで荷物を階段で運ぶのが疲れた身体にはキツイ。二日振りにシャワーを浴びたらとてもスッキリした。19時半に市場近くの食堂で魯肉飯（台湾でよく食べたのと似た味でうまくかった）を食べて部屋に戻ってビールを飲んだ。22時まで二日分の日記を書いた後寝る。



(左上) 朝の梅花鎮 街へ出る人たちでごった返している

(右上) (左下) G240 沿線風景 (右下) カルスト地形の中を進む (大橋鎮にて)

11月24日 星期天 晴れ 竜帰鎮→英徳 英徳駅前の住宿（名称不明）：30元

二度寝して8:45に起きた。相変わらずよく寝た。部屋でパンを食べてから9時半に出発した。昨日までと異なり、朝からだいぶ暖かい。南嶺の南へ来たからだろうか。10時半、白土鎮のはずれで北江に架かる橋を渡る。

12時に烏石鎮に着き、道路沿いの店で炒飯を食べた。周りの木は、亜熱帯らしい、樹高の高く細長い木が多くなり、東南アジアっぽい風景になった。一昨日までいた湖南省とはガラッと雰囲気異なり、気候区分が変わったことを実感した。北江の東側の交通量の多い道を進んで、16時半に英徳駅に着いた。商店で水、パン、玉ねぎの揚げ物を買ってから、駅のすぐ横の住宿（看板にただ「住宿」とだけ書いてあった）に入る。チェックインの際、野次馬？で見に来たおじさんが良い人だった。

部屋で広州の宿について調べた。国際青年旅舎が少なく値段も高い。やはり大都会の相場は高いのだろう。シャワーを浴びて、コーヒーを淹れて飲んだ。宿のおやじがカイシュイ（開水とかく。でかい魔法瓶みたいなものだが消火器に見える。大抵の宿にあり、人民はこれで茶を飲むらしい）を部屋の前まで持ってきてくれて有難かった。その後、日記を書く。線路沿いなので列車の轟音が響く。夜寝られるだろうか？

夕飯は近くのイスラム食堂で牛肉拉麺を食べた。結構繁盛している店でおいしかった。宿に戻る際、駅前広場で多くの人民が踊っていた。やはり中国はまだバブルなんだろうか。部屋に戻ってから広州の青年旅舎を予約した。部屋でビールを飲んだ。便をする際、手紙がなかったので1階の前台に取りに行ったら階段の窓からオリオン座がよく見えた。24時過ぎに寝る。



(左) 烏石鎮の辺りの風景 韶関中心部へは行かなかった



(右) 英徳駅前の住宿にて こうして毎晩中国の地図を眺めたのも今では良い思い出である。

11月25日 星期一 晴れ 英徳→源潭鎮 藍月亮旅店：42元

8時過ぎ起床。5階の部屋から荷物をおろして宿を出た。昨晚と同じイスラム食堂で牛肉拉麺を食べて9時半に英徳を出発した。しばらく進むと、北江が山へ流れ込むようにして峡谷が始まった。川沿いの断崖にいくつもの隧道と栈橋が設置されていて、走りがいのある道だった。対岸の岩肌に瀆陽峡と赤い字で彫られていた。貨物船も往きかっけていて「小さな三峡」という感じがした。

瀆陽峡を抜けてからも北江沿いの道を進んだ。交通量が少なく、景色も良く、追い風だったので順調に進んだ。道中、日本に帰国してから（いつになるかは分からないが）のことをずっと考えていた。12時前に飛来峡鎮に着いて、飯店で炒飯を食べた。この辺りの北江は峡谷というよりかはダム湖みたいな感じだった。

地図を見て予想していたが、目的地の源潭鎮には早く（14時前）には着いてしまった。駅前では何件か宿をあたって、一番安かった藍月亮旅店（テレサテンの歌みたいである）に入った。駐輪代込みで42元なり。前輪の空気を少し入れた。部屋でコーヒーを淹れながら日記を書いたりした。

シャワーを浴びて、19時半に夕飯を食べに外に出ると風が強く吹いていた。宿の向かいにイスラム食堂が、隣に美宜佳（コンビニ）があり立地がとても良い。昨日の夜からイスラム食堂ばかり行ってたで、今回は普通の食堂で、卵洗飯とトウモロコシの餃子（正式名称忘れた）23時半に布団に入る。明日はいよいよ広州だ。



（左）北江の峡谷に向かって貨物船と並走



（右）炒飯ははずれがない。油は多めだが、、、（飛来峡鎮にて）

12月26日 星期二 曇り時々晴れ 源潭鎮→広州 広州東山家家青年旅舎：82元

7時半起床。この部屋は便所に扉がなく（便所と部屋を隔てている壁も天井まで届いていない）て臭いのと、蚊が多いためにあまり寝られなかった。宿を出て、向かいのイスラム食堂で牛肉拉麺食べてから、9時に源潭鎮を出発した。

10時から広清大道という道に入る。この道は車道が工事中で一車線になっていたので、何台もの民度の低い車が二輪専用の側道に乗り入れていた。頭に来たので「車道を走れ馬鹿野郎！」とジェスチャー込みで日本語で言ってやったら、窓が開いて「なんか文句あんのか」と言った感じのことを言われた。もめたくなかったので「不懂漢語」と言ってごまかす。

清ユエン市と広州市の境らへんの高速道路沿いを進んでいたら、路面がダートになってしまった。航空写真で予想はしていたが、かなりひどい状態でぬけるのに時間がかかった。13時過ぎに花都区の広州北駅近くのイスラム食堂で刀削面を食べた。花都区はかなり都会的だったが、しばらく南へ進むと再び農村地帯になった。進んでいる道が、北部から広州中心部へ通じる数少ない幹線だったので、市街に入るととても混雑していて時間がかかった（それにしても中華人民は多すぎる）。

16時前、広州駅前の中国大酒店の前に着く。市内では二人に話しかけられた。二人とも英語ができた。また、街には多くの白人や黒人もみられ、そこらへんの省都とは格の違いを感じた。16:20 目的としていた石室聖心大聖堂に着いた。中国で最も高いという尖塔が聳えていた。写真を撮ってもらった。

聖心堂からは珠江沿いを東へ進んだ。中国農業銀行で千元引き出してから予約していた広州東山家家青年旅舎にチェックインした。1泊82元とドミトリーにしては高いが、設備雰囲気はとても良い。スタッフも英語ができて、自転車を3階のベランダに置いといてもらったので安心。シャワーを浴びてから近くの下町で肉餅飯と珠江啤酒300×2を買う。青年旅舎のベランダで食べる。肉餅飯は広東料理らしい蒸しもので美味しかった。長沙以来の洗濯物を干してから、22時過ぎ寝た。良く寝られた。



(左上) 酷いダートになった(清ユエン～花都区間)

(右上) 徐々に街になり、、、(花都区)

(右下) 広州到了！ 右の建物が中国大酒店



(左) 石室聖心大教会にて (右) 肉餅飯と珠江ビール

11月27日 星期三 晴れ 広州滞在 広州東山家家青年旅舎：82元

8:50 起床。2回目の洗濯をしてからマクドナルドにいったモーニングセット(6元のやつが広州にもあった)を頼む。新しい店で綺麗だが、BGMがうるさい。青年旅舎に戻り、洗濯物を干して便をしてから、地下鉄に乗ってまず陳氏書院へ向かう。

11:40 陳氏書院に入る。同じ書院でも長沙の岳麓書院より開放的で豪華な印象を受ける。広州という土地柄か、それとも比較的新しい清末期の建築だからだろうか。特に屋根の軒飾りが繊細でだった。故事を表す様々な彫刻が並んでいて見ていて面白かった。日光東照宮の陽明門と似たものを感じた。

陳氏書院から再び地下鉄で移動し、13時前に沙面島に行く。沙面島は珠江沿岸にある、かつての英租界で今でも当時の洋風建築が多く残っている。英租界だった西側から入って、中央の沙面大道を通って東側へ抜けた。租界時代に植えられただろうウズノキらしき常緑樹が、建物を埋めるように生い茂っていて良い雰囲気だった。上海共同租界のように「大量漢服コスプレ集団」がいるわけでもなく、欧米人の会社員がいたりと落ち着いていて良かった。

沙面島から珠江沿いを東に進んで、イスラム食堂で刀削麺を食べてから、歩いて石室聖心大聖堂へ行く(昨日、外観を見ただけなので)。無料で内部に入れた。キリスト教徒のおばさんが観光客に静かにするように注意喚起していた。教会内では若い人民が自撮りばかりしていて、中国にもう少しキリスト教が普及すれば多少はマナーも改善されるのでは、などと思ったりした。

15時頃、聖心堂を出て地下鉄で西漢南越王博物館へ行く。ここは学割で5元で入れた。広州は宿代は高いが観光地は良心価格だ。最初、1938年に見つかった文帝の墓に入った。石で囲まれた墓室ないは暑く、夏場の土日は大変だろうと思った。次に出土品の展示室へ入

る。絲縷（しろう）玉衣や、舟の絵が描かれた青銅器など見応えのある展示だった。紀元前の中国は長江以北を中心に技術や文化が発展したと思っていたので、嶺南の広州にもこれらの高度な文明があるとは知らなかった。広東は海外との貿易が始まるまでは未開の地だったという自分のイメージを変えさせる展示だったと思う。17 時過ぎ、博物館を出て広州駅まで歩いて行く。明日の深圳西駅行きの切符を買った。深圳駅だと高かったのを、深圳西駅にして 24.5 元で買った（←格安）。18 時半、青年旅舎に帰る。近くの食堂で広東料理っぽい夕飯を食べた。シャワーを浴びてからビールを買って 3 階で飲んだ。23 時過ぎまで日記を書いたりした。



(左上) 陳氏書院

(右上) 沙面島近くの街並み。洋風建築が多く残る

(左中) 西漢南越王博物館 絲縷玉衣

(左下) 治安が悪そうな広州駅

(右下) 道端の書店にて 直面香港暴力、、、